

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	このこのリーフ			
○保護者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年10月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年10月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動能力の向上を図れる。 日常生活に必要な身体の基本的な活動能力を高め、楽しく持久力、運動神経や身体機能を向上できる。 外遊び、短距離走などにも小学生は参加してくれている為学校での運動でも結果が出ています。	施設到着後の手洗いうがい、療育など個々の目標に向けて取り組んでいる。 LINEを活用して本日の活動の動画を父兄に送り安心感を持ってもらえるように意識的に継続している。	体の柔軟性を高めている。そして児童の好きな水泳を夏休み中の療育時間を設けて体力づくりの支援に取り組んでいます。
2	学習能力の向上を図れる。施設到着後、学校からの宿題を30分また児童によっては、宿題とは別にドリルなどを自主的に行わせ、学習力の向上を図っている。 父兄とのコミュニケーションを取り要望されている場合、漢字検定などの指導することができています。	「わからない」という言葉は児童に繰り返し、とてもいいことと何度も伝え、「わからない」ことに対してストレスを感じる子供たちにポジティブな思考をさせることを心がけている。黒板・そろばんなどを使用し楽しく学習に取り組ませている。	物づくり（図画工作）に力を入れている。集中力、継続力、微細運動になることが理由です。
3	社会性の向上を図れる。 責任感や協調性など周りの人々がかかわる時の態度、マナー、あいさつ、行動を高めることができる。 児童の「尊厳」を大切にしていって職員の情報共有ができている、	療育については小学低学年でも高学年と同じメニューをこなしているため、高学年に聞いた入り指導してもらっているため一体感が生まれ、協調性が自然とできている。	課外活動に参加することにより地域との交流を深め、態度、挨拶、マナー、行動を正し、責任感、協調性を育めたい。 児童の人格を尊重して児童が自分のことを自分で決め自分らしく生きることを支援していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の悩んでいることにしっかり聞いてあげられているか また保護者の児童に対しての要望している健康面、学習面、運動面、社会性をしっかりとサポートできているのか？今後も継続的なサービスが提供できるようにソフト、ハード面から改善して参ります。	送迎時のコミュニケーションだけではその日の様子の報告程度になってしまう。	父兄とコミュニケーションをとり、相互に情報提供をしていくつもりである。同時に保護者同士の交流も深め、家族支援もサポートしてまいります。
2	虐待防止委員会時や虐待防止マニュアルの読み合わせは実施しているが虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、速やかに市町村に通報しなければならないことを全員に徹底したい。 小さな出来事から虐待にエスカレートしていくので小さな出来事感を現場で共有するための伝達方法が課題です。	「どうしてこんなことができないの」「施設にいらなくなるよ」など職員の発言に注意する。	児童の場合、危険性がまだ判断できない為、具体例を出して積極的にのしつけと虐待の定義の見直しを行います。
3	児童クラブや地域のほかの子どもまた大人の方々との交流が少ない。近いところでは施設の保護者間の交流ができていない。小学生から高校生までの児童が利用しているのでそれぞれのやりたい事、価値観が異なるため児童の満足してもらえる支援方法が課題です。	保護者間の交流を進めるための時間が少ない	レクリエーションの行事を開催し、父兄の参加と同士の交流を深めたいと考えています。